

# 市政ニュース

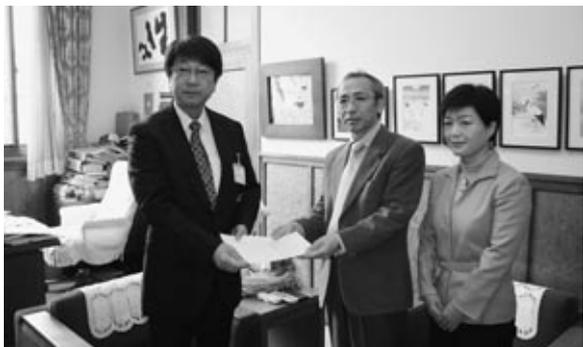
## 豊岡市環境審議会が環境基本条例を答申 「コウノトリ」をシンボルに環境保全を

11月21日、豊岡市環境審議会（会長＝池田 啓・兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授）が、「豊岡市コウノトリと共に生きるまちづくりのための環境基本条例」の最終案を市長に答申しました。

本条例案では、コウノトリの野生復帰をシンボルにして、良好な環境を広げ、将来の世代に引き継ぐことと、そのための基本理念、方針などを定めています。

同審議会は、学識経験者や市民、各種団体の代表者など委員15人で構成され、8月から議論を重ね、市民環境懇談会の意見なども反映して条例案を作成しました。

条文には、住民だけでなく来訪者も含めて良好な環境の保存、再生、創造に取り組むことや、市がさまざまな事業や施策



▲環境基本条例案を市長に答申する池田会長（中央）と坂本副会長（右）

などを進めるときに環境に配慮することなどが盛り込まれています。市では、この答申を踏まえて12月議会に条例案を提案しました。

なお、同審議会では、引き続き、環境基本計画および環境行動計画の策定に取り組み、本年度中に市長に答申することになっています。

## 北但地域環境フォーラム

### ごみ減量で環境と未来を考えよう

12月2日、市民会館で、北但地域環境フォーラムが北但1市2町と北但行政事務組合の共催のもとに開催され、約630人が参加しました。

これは、新しい広域ごみ処理施設の整備が求められる中、循環型社会の形成とごみの適正処理について地域の皆さんと一緒に考えるために開催されたものです。

当日は、香美町出身の環境省大臣官房廃棄物・リサイクル

ル対策部長の由田秀人さんによる「循環型社会を目指して、我が国からアジアへ、世界へ」と題した講演や、中貝市長や住民代表も参加してのパネルディスカッションが行われました。

「少しの工夫で家庭からごみを減らせる」「もっと住民も問題意識を持つべきだ」など多くの意見が出され、聴衆もごみ問題や施設整備のあり方などを考えていく機会となりました。



▲パネルディスカッションには、市長や住民も参加し、ごみや環境問題などを議論した

## 仲田光成記念第6回但馬竹野全国かな書展

### 仲田光成記念賞に市内在住の加悦綾翠さん

11月23日から26日までの4日間、北前館と中竹野ふるさと館を会場に、文化庁などの後援を受けて但馬竹野全国かな書展を開催しました。

6回目となった今回のかな書展には、全国24都道府県から4,143点の応募があり、入賞・入選作品2,857点と賛助作品、招待作品などを展示し、各会場は大勢の入場者でにぎわいました。また、

開催期間中には、年賀状の書き方などを学ぶ書道教室も行われ、参加者は書の魅力にふれていました。

26日に竹野総合支所で行われた表彰式には、最高の賞である文部科学大臣賞に選ばれた東京都在住の道明幸勢さんと仲田光成記念賞に選ばれた豊岡市正法寺在住の加悦綾翠さんなど47人の入賞者が出席。奥田助役から賞状と盾を



▲入賞作品の前に記念撮影をする家族連れ

手渡されると、笑顔で応えていました。

## 国体開催記念・記念盾贈呈と記念植樹

### スポーツ発展に期待を寄せて

11月22日、コウノトリ文化館で、のじぎく兵庫国体の豊岡市開催競技の運営代表者に対する記念盾贈呈式を行いました。

当日は、国体実行委員会のメンバーなど関係者約25人が見守る中、中貝市長が、運営委員長や円山川城崎漕艇場、県立但馬ドームなどの施設長に記念盾を贈呈しました。

また引き続き、兵庫国体の炬火採火地となったコウノトリの郷公園に記念植樹を行



▲炬火採火地となったコウノトリの郷公園に記念植樹する関係者

い、「人と自然との共生の火」と書いた標柱とあわせて、高さ約4メートルのヤマボウシを植え付けました。

## 市道橋の長寿命化に向けた取組みがスタート 適正な維持管理で経費節減を図る

市では、国土交通省や近畿地方整備局、但馬県民局の支援を得て、地方都市では初となる「市道橋の長寿命化に向けた取組み」を開始することになりました。

市道には、現在、長さ15メートル以上の橋が216本架かっており、多くは昭和30年代後半以降に設置されたもので、今後続々と架け替え、大

規模改修が必要になることが予想されています。このため、既存の橋梁を適切に維持管理し長寿命化を図り、経費を削減することが求められています。すでに市職員が橋梁の点検を11月から開始しており、今後、その点検結果に基づき補修の適正と優先順位などをまとめた「市道橋梁長寿命化計画」を作成します。

## 野生復帰を支援するコウノトリ基金に寄付続々と JTBが旅行商品の収益の一部を寄付

11月9日、大手旅行会社の株式会社JTBからコウノトリ基金に寄付を受けました。これは、本市がJTB交流文化賞を受賞したことをきっかけに、同社が今年6月から10月にかけて「コウノトリも暮らすまちへ」豊岡の挑戦」と題した団体・グループ向けの旅行商品を販売し、その収益の一部(212,940円)を寄付されたものです。この旅行商品は、主に中国・

四国方面の団体に販売され、約1,000人がこの商品を利用してコウノトリを見学に豊岡へ訪れています。

同社西日本国内商品事業部の宇田川雄彦・団体企画部長は「観光地という素材ではなく、コウノトリを支えてきた地域の取組みに興味を持たれ利用した方が多く、私たちも新境地を開拓させてもらいました。第2弾として、来年は、お客様にコウノトリを見るだ

## 城崎温泉観光協会がコウノトリ募金を寄付

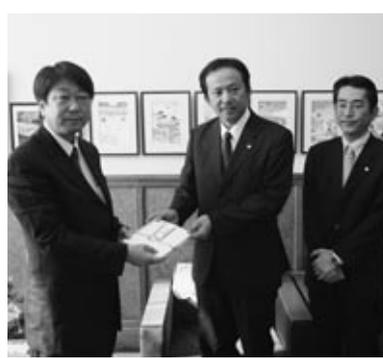
12月1日、城崎温泉観光協会からコウノトリ募金で集めた寄付金248,824円を受け取りました。

同協会は、コウノトリと共生できる自然環境の保全活動を支援するため、今年7月、コウノトリ募金を設立し、コウノトリの卵をイメージして作った但馬焼の募金箱86個を城崎温泉街の旅館や土産物店などに設置しました。

当日は、同協会の飯田敏之会長が城崎温泉のマスケットキャラクターとともに来庁し、設置後初めて回収した約4ヵ月分の募金を中貝市長に手渡しました。

市では、この募金を、放鳥コウノトリの餌場であり、平成20年度完成に向けて計画を進めている城崎温泉近くの(仮称)戸島湿地の維持管理費に充てることにしています。

けではなく、何か体験してもらえらるような旅行商品をぜひ企画したいと思います」と話していました。



▶「プレゼントに付けたコウノトリの郷米が大人気でした」と市長に目録を手渡すJTBの宇田川部長(中央)



▶城崎温泉街の旅館や土産物店などに設置されているコウノトリの卵をイメージした募金箱